

10周年記念シンポジウム報告（後半）

すべての子どもたちに安心・自信・自由を！

前回のつうしんに引き続き10月21日に行った10周年記念シンポジウムの後半部分を報告します。後半は「すべての子どもたちに安心・自信・自由を！」のタイトルのもと、那覇市立宇栄原小学校の校長先生 横山芳春さん、おきなわCAPの期待の新人で看護師をしている仲程ひろみさん、設立当初からのメンバーで副代表の宮国幸子さんの3人にお話をさせていただきました。

CAPとの出会い



街づくりの専門家で、
環境教育を実践する
宇栄原小学校の校長先生
横山芳春さん

校長になって3年目です。民間校長の募集が出ましたので、応募して運良く採用されました。その前は22年間、那覇市の職員をしてきました。街作りが専門で、市民が主役になって街づくりをする市民参加の考え方で仕事をしてきました。市役所で、もっとも印象に残っている仕事の一つが那覇市NPO活動支援センターを作ったことです。

社会には大きく分けて2つのセクターがあるといわれてきましたが、最近では3つと言われるようになりました。第一セクターは行政。第二セクターは企業、そして最近登場してきたのが第三セクターの市民セクターです。市民セクターと行政が一緒になって街作りをしよう、社会づくりをしよう、市民活動団体を側面的にバックアップする仕事をはじめたわけです。それがNPO活動支援センターでした。

CAPとの出会いはその頃です。助成金の申請か何かでセンターを訪ねてこられた

と思うんですが、お話を聞いてびっくりしました。2000年度でしたか、年間300以上のワークショップをやったと。非常に精力的な活動です。（中略）

社会を自分たちで良くしていくという人たちが組織的に出てきたというのを実感しています。そういう意味でNPOというものに希望を持って、市役所時代にNPOの仕事すすめたわけです。



おきなわCAPの期待の
新人であり、子育てと仕事に燃える看護師
仲程ひろみさん

CAPが今ほど身近になったのは、子どもが小学校に上がる頃です。家は学校から離れたところにあり、周りにはもうみんな送り迎えです。通学路には「変質者よ、みんなが見ているぞ」とか、「ここで不審者が現れました」というような立て看板があり、学校からは不審者情報のチラシが何枚も来る。不安を煽るようなことが多かったのです。自分たちの小さい頃、道草するのが楽しかったのにとか、こんなに親が守っていて、社会にでてこの子たちは生きていくのかしらと思ったりしていました。

そんな矢先、学童のお母さんたちがCAP入れたいねって話していて、ちょうどいるのでCAPのワークショップをやるということで、5、6人で出かけました。それが自分の不安をかき消すような内容で、これだって思いました。もっと深く知りたくなって、ちょうど育児休業中だったので去年スペシャリスト養成講座を受けました。

今年の3月から仕事に復帰しまして、南部医療センターで働いているんですが、その前の10年ぐらいは救急医療に携わっていました。救急では、やはりさまざまな人権侵害を受けた患者さんがいらっしやるんです。(中略)そういうときに私は自分のことをとても無力な存在に感じていたんです。何か声をかけたい気持ち、関わってあげたい気持ちはあるけど、どう関わればいいのかもわからないし、なかなか関われずじまいでした。けれども、CAPの養成講座を受けてからは、私たち一人一人に何かできることがあるんだと自信ができました。今は別の病棟に異動しましたが、救急外来の看護師さんたちと交流を深め、看護の現場で2次被害を起こさないように、勉強会等をしています。また、病院で職員向けにCAPのワークショップをすることでそれぞれの暮らす地域や子どもの学校にCAPが入っていけるような、大きな広がりができるんじゃないかと考えて、今働きかけているところです。



設立当初からの古株メンバー。おきなわCAP副代表
宮国幸子さん

私は県の職員で、15年ほど前に実務学園(現在の児童自立支援施設わかなつ学園)に勤務することになり、非行の子どもたち

と関わるようになりました。当時の実務学園は、注意しても聞かない子には体罰もやむを得ないという雰囲気でした。でも、子どもたちの境遇を知ると、小さい頃からたたかれ、学校でもたたかれて、それでも治らない子どもをたたいて、何が伝えられるのだろうという思いがありました。どうしたらいいのかわからず、もんもんと4年間働き、その後児童相談所に移りました。

その頃、児童虐待ということが日本でも認知されるようになってきていて、長田先生が虐待について勉強会をしようと児童相談所に呼びかけて下さったんです。児童相談所の職員、精神科で働く臨床心理士、女子少年院(現在の女子学園)、女子少年院の職員といったそういうメンバーで勉強会がはじまりました。みんな手探りの状態でした。

そうした中、メンバーの一人が森田ゆりさんの研修会を受けてきました。「安心・自信・自由」という短い言葉で人間の一番大切な権利を教えるということが私にはとても衝撃的でした。ちょうど同じ頃、与那覇トウシーさんが「心の叫び」という本を出版なさるといって沖縄にいらして、出版記念講演会がありました。そこでCAPを紹介して下さって、勉強会のメンバーも舞台上でCAPのロールプレイに参加させていただきました。

トウシーさんの講演会が終わってすぐ「おきなわCAPセンター」は立ち上がって、活動を始めました。児童相談所にいる5名のCAPスペシャリストが中心でしたが、職員には転勤があります。5名がバラバラになる前に活動を広めなければと、98年に森田さんの講演会を開き、沖縄でのスペシャリスト養成講座を実現させました。あんなに忙しい職場で、よく頑張ったなと振り返っても思いますが、どんなに忙

しくてもパワーは湧いてくるのです。

私は、CAPのエンパワメントという考え方を、仕事のよりどころにしています。誰もが問題を解決する力を自分の中に持っている、その力を発揮できるように支援するというエンパワメントの考え方は私の基本です。CAPをする前は、周囲から「甘すぎるんじゃないか」と言われるたびにふらふらと揺れたりしましたが、エンパワメントの考え方を知ってからはぶれることがなくなりました。

これからの10年に向けて、 CAPへのメッセージ



横山芳春さん

(CAPが学校に入れないということも多いという話から) 学校側がCAPの内容をよく知らない、ワークショップを受けたことがないわけです。また、NPOとは何かもよく知らない。要するに「分からない」ことが理由なのですが、他の理由をつけて断ることがよくあるわけですね。

私がどうして校長になったかというところ、CAPの活動と通じると考えています。一つが子どもに自信をつけさせてあげたいということです。自分たちが一生懸命頑張れば、社会、街を良くしていけるんだと、こういう自信みたいなものを子どもたちにつけさせてあげたい。市民性を育てたいというのが目的の一つです。社会を自分たちの手で変革できるんだというのは自信になり、変革できるという自由を感じることができません。自信と自由ができれば精神的には安心感がでてきます。そういう意味では私が目

指しているものと、CAPが目指しているものは同じだろうと思います。

スウェーデンの文部省は、社会は自分たちで良くできるんだという楽観的な展望を与えることが教育の大きな目的だと言っています。社会のテーマに自分自身の意見を持つ、積極的に生きる姿勢をつくる、自分たちは社会的な存在なんだと授業を通して育てていくわけです。

子どもはすごいというお話がありましたが、私も学校に行き、そう思います。学校に行き、すぐ、教育目標を変えました。半年かかっているいろいろな考え、「千の子どもに千の可能性」すべての子どもには可能性があるというのを理念にしました。これを実現するために私たちは教育をするんだということを教職員の間で徹底させているところです。授業で子どもたちの可能性を開いていく。

学校とCAPの活動は理念的には共通です。CAPの内容を学校や教育委員会にどう理解させていくか、これは大きな課題だと思います。もし、学校現場、教育現場がCAPの内容を十分に理解でき、NPOとは何かを理解できれば、学校はCAPを受け入れ、頼りにしていただろうと私は確信しています。



仲程ひろみさん

学校でCAPを！という話になって、集まったお母さんたちからよく出るのが「このお母さんたちは意識が低いから」って。私は自分のこどもの安全に対して意識が低い親っているのかなと疑問に思っていたん

ですけど、CAPを受けてみて、意識が低いのではなく、情報を知らないだけだとわかりました。たまたま私はCAPに出会っただけ幸せなんだと思います。だから、私はCAPをみんなに広めていく義務があると思っています。



宮国幸子さん

児童相談所、女性相談所で私は働きましたが、ある意味で社会の構造的な一番底辺に置かれている人たちが逃げ込んでくる場所です。でも、その人たちが怠けてそういうふうになっているわけではない。世の中、力のない人も力のある人も、みんな幸せに生きていく権利がある。人が人を大切に。そういう社会をつかっていく本当の基礎の基礎がCAPの考え方にあると思います。

CAPは、一生懸命子どもたちにワークショップをします。その中で被害者にも、加害者にもならない、相手を大切にする生

き方を示します。CAPを受けた子どもが増え、この子たちが大人になるころに、世の中を変える力になっていくんじゃないかな、と私は期待しています。

参加者の感想より

●横山先生の行政側からNPOを支えた話は感動した。又、先生の教育理念はすばらしい。千の子どもに千の可能性！今日は疲れていてどうしようか迷ったけど、がんばってこの場において本当によかった。

●私は子どもがいないので普段子どもと関わる機会は少ないほうだと思います。子どもたちの様々な環境について、こんなに懸命になっている大人がたくさんいる事に少し安心しました。

●子どもたちの安全、安心な生活が当たり前のものになるよう、これからも広く活動を続け、たくさんの人たちに知ってもらえたらいいですね。

(シンポジウム会場 沖縄県男女共同参画センターでいる)

10周年記念パーティーのようす

